

関係者各位

令和2年7月9日

アーキアエナジー株式会社

**「羽村バイオガス発電所」の竣工について**  
**～地方創生・地産地消型の新たな食品リサイクル・ループ 首都圏においてスタート～**

アーキアエナジー株式会社（東京都港区西新橋 1-18-6 クロスオフィス内幸町 1309、代表取締役 植田徹也、<http://www.archaea-energy.co.jp/>、以下「弊社」）は、東京都羽村市緑ヶ丘 3 丁目 3 番 3 に、国内のバイオガス発電所でも大規模となる「羽村バイオガス発電所」の建設を 2017 年 4 月より進めてまいりましたが、このたび建設工事が完了し、本日、竣工式を執り行いましたことを、ここに発表いたします。式典では、東京都羽村市市長をはじめ、関係者の臨席をいただき、記者発表会も行いました。



本事業は、「羽村市エネルギー使用の合意化及び地球温暖化対策統合実行計画【略称：統合実行計画】」を推進している羽村市のご協力のもと、弊社の掲げる「カロリー・リサイクル」、すなわち「新たな食品リサイクル・ループ」の1つのモデルケースとなることを目指して、主に食品・飲料工場などから排出される食品残渣等の廃棄物処理施設および再生可能エネルギーであるバイオガス発電施設を運営するものです。

本事業は関東圏で排出される食品廃棄物を原料とし、メタン発酵処理をおこなうことで発生したバイオガスを使用して発電を行います。

昨今バイオガス化による廃棄処理への期待は高まってきています。食品残渣に代表される食品廃棄物は、水分率と塩分が高いため、燃焼効率が悪く焼却施設の劣化が進みやすいので、焼却処理に適さないとされています。このような焼却施設の老朽化が社会問題となる中、食品廃棄物のリサイクル率向上、温室効果ガスの削減に寄与し、循環型社会の実現に貢献する取り組みになります。



また、本事業の特徴として、補助金等を一切使わず、全額民間資金による完全なプロジェクト・ファイナンス方式で資金調達をしております。

今回、三井住友ファイナンス&リース株式会社（代表取締役社長：橋 正喜、以下「SMFL」）は総事業費35億円のうち22億円分に相当する設備について契約を締結しております。

（日本経済新聞令和2年4月21日付第14面「食品廃棄物発電を支援 三井住友FL設備一式をリース」に掲載しております）

当発電所は、日量約 80 トンの食品残渣等を全て近隣および東京都内から受け入れ、1,100kW の発電機を 24 時間稼働し、年間 770 万 kWh（一般家庭約 2,100 世帯分相当※）の電力を供給することが可能です。これは立地する地元地区の全世帯を賅っても余裕のある発電量となります。売電先は、東京電力エナジーパートナー株式会社となります。

※1 世帯あたり年間 5,500kWh で計算。

### 「羽村バイオガス発電所」実現の背景

わが国で発生する食品廃棄物は年間 1,713 万トン（2010 年）に達し、そのうち約 1,300 万トンは焼却される一方で、再生利用されているものはわずか 400 万トンにとどまっています。その大きな理由のひとつが、農林水産省・環境省・消費者庁において食品リサイクル法の制定（平成 12 年）をはじめとするさまざまな対策・啓蒙活動を行ってはいるものの、結果的には、食品廃棄物の再生施設がなかなか増えていないことです。

（統計出典：消費者庁資料 [http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf\\_data/131028\\_sanko2-5.pdf](http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf_data/131028_sanko2-5.pdf)）

この状況の原因となっているのが「許認可関連のハードルの高さ」、「（普及途上であるが故の）建設資金の調達難しさ」ではありますが、弊社が専門的能力を駆使してこれらをクリアしたことが、今回、本発電所が実現する原動力となりました。

一方で、わが国は現在、政府を挙げて「地方創生」に取り組んでいます。この取り組みは、まさに弊社の「地域社会に密着し、地産地消で地域と共に歩む」という理念と完全に合致するものであり、弊社は本事業を「ビジネス効率だけを追求した計画」とはせずに「地方創生・地産地消できる計画」として練り上げ、ここに実現させました。

### 今後の展開

弊社は、本事業を実現させたノウハウを徹底的に活用し、今後も「カロリー・リサイクル」、すなわち「新たな食品リサイクル・ループ」の構築のため、スピード感をもって事業展開を図ってまいります。

・既に第 3 プラント（中部地区）の資金調達中で本年 10 月頃に着工予定、2022 年稼働予定。

・また、並行して第 4 プラント（関東首都圏地区）についてもプロジェクト・ファイナンス方式での資金調達を計画しております。

今後とも弊社は、他社の追随を許さない専門性とスピード感をもって、この業界のトップランナーとなるべく邁進し、再生可能エネルギー発電を行いうるさまざまなソリューションを通し、SDGs に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。

以上

## <羽村バイオガス発電所 施設概要>

施設名 羽村バイオガス発電所

所在地 東京都羽村市緑ヶ丘3丁目3番3

運営主体 合同会社羽村バイオガス発電

設備能力 産業廃棄物（食品残渣）処理量 日量 80t

発電機出力 1,100kW

プロジェクト企画／ストラクチャリング／アセット・マネージメント

アーキアエナジー株式会社

東京都港区西新橋1-18-6 クロスオフィス内幸町1309、代表取締役 植田徹也

<http://www.archaea-energy.co.jp/>

オペレーター

株式会社西東京リサイクルセンター

東京都羽村市緑ヶ丘3丁目3番3、代表取締役社長 植田徹也

<http://www.nrc.tokyo.jp/>

EPC

野里電気工業株式会社

大阪市西淀川区柏里2-4-1、代表取締役社長 告野満彦

<http://www.nozato.jp/>

土木建設工事

奥多摩建設工業株式会社

東京都青梅市東青梅5-10-3、代表取締役社長 横倉実

<https://www.okuken.co.jp/>

以上